

検査室効率化ソリューションの展望について

◎井上 誠也¹⁾

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 ラボソリューション事業部¹⁾

医療において重要な位置を占める臨床検査は、昨今、検査データの「品質管理」、「ICTを用いた共有化」そして「国際化」への対応が求められる新しい局面を迎えている。これは行政機関からの数々の指針また保険点数改定にも表れており、例えば、国際標準検査管理加算や検査・画像情報提供加算もそれらの一例である。

その根底にあるのは、「臨床検査データの施設を超えた共有化ニーズの高まり」があると考えられ、今後は更に、国境を越えたデータ共有化もテーマになる。これは、日常診療において地域における医療連携が推進されている状況、また医薬品・医療機器の国際共同治験が盛んに行われている状況が、それらを示す具体例である。

このように臨床検査データの重要性が高まる一方で、検査室がこれまで対応してきた数々の課題は、半永続な課題として認識されており、下記3つのキーワード(key word)に集約されると考えられる。

1) **Quality**;検査データの品質の向上を意味し、そのための精度管理から品質管理までをさす。

2) **Speed**;検査データの迅速な報告を意味し、診療前検査の実現をさす。

3) **Cost**: コストバランスのとれた検査を意味し、臨床的意義の高い検査をよりリーズナブルに行うことを指す。

これらの課題に対して各企業が、装置、試薬、システムの開発・販売・サポートを行っているわけであるが、当社の製品は特に「**Medical Value**」(医学的価値)の高い検査項目とあわせて、「**Testing Efficiency**」

(検査の効率化)を主軸におきながら、現在の製品ラインナップの提供および今後の製品開発を進めている。検査の効率化を実現するコンセプトやソリューションは多岐にわたるが、ソフトとハードでの両立が望ましい形といえる。例えば、ソフトでいえば、「**LEAN Six sigma**」の手法を用いた検査室運用・検体運用の効率化が一例であり、ハードでいえば、検査自動測定システムからはじまり、検査前と検査後での自動化処理システム(**Automation**)がそれにあたる。

本演題では、上記3つの課題について、客観的データを踏まえて整理し、それらに対する検査の効率化の

コンセプトやソリューションを具体的かつ客観的に紹介する。今後の検査室の運営や構築を検討する上で、一助となれば幸いである。

連絡先：03-6634-1037